

令和2年度第1回 筑後市地域自立支援協議会 生活部会

開催日時：令和2年6月23日（火）13：30～14：30

開催場所：筑後市総合福祉センター 2階大会議室

出席者（事業所）

年輪の園、浩明寮・仁愛荘、プラムの小径、プラム.ちくご、わかたけ作業所、筑後市社会福祉協議会、ヘルパーステーションキリン、筑後市手をつなぐ育成会、自立生活センターちくご、筑後市ホームヘルプ、筑後市役所福祉課、ちくたくネット、事務局

★ 新型コロナウイルス感染症の影響で当初の予定を変更し、感染予防対策を実施したうえで、今年度最初の部会を開催しました。

★ 意見交換

新型コロナウイルスの影響で困ったことや今後の課題、生活部会として何ができるのかという議題でグループに分かれて意見交換を行いました。それぞれの事業所で抱える課題や、今後第2波がきた場合の対応などについて話しました。

- ・新型コロナウイルスの影響で通所サービスや移動支援利用が難しくなり、当事者、家族共にストレスをかかえていた。早く通常の支援を開始してほしい。
- ・入所、通所施設では食事の際、3密を避けた対応が難しい。入所している利用者のストレス軽減のため、外出支援を少しずつ緩和していきたい。
- ・今後、第2波が来た場合の対応について課題としてあがり、国や県の通知に応じ臨機応変に対応していく必要がある。との意見がありました。

★今後も生活部会として筑後市障害者基本計画「安心して暮らせる地域づくり」をテーマに活動を行っていきたいと考えています。

開催日時：令和2年8月26日（水）13：30～14：30

開催場所：筑後市総合福祉センター 2階大会議室

出席者（事業所）

年輪の園、浩明寮・仁愛荘、プラムの小径、プラム.ちくご、わかたけ作業所、自立生活センターちくご、筑後市社会福祉協議会、ヘルパーステーションキリン、桜園、筑後市手をつなぐ育成会、県南障害者サポートセンター、相談支援事業所ちやおちやお、デュナミス、すいれん、筑後市ホームヘルプ、生活支援コーディネーター、筑後市役所福祉課、ちくたくネット、事務局

3事業所リモートで参加

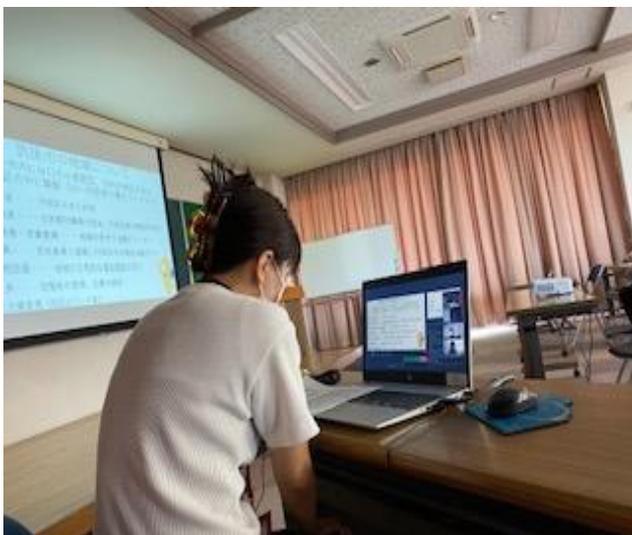


★ 感染対策として今回は初めてリモートと会場内での開催となりました。

災害時の支援ということで、生活部会と相談支援部会の合同開催となり、相談支援専門員より「生活支援コーディネーターとの連携について～重度障害児の災害時の避難を通じて～」という表題で事例紹介をしていただきました。在宅生活をしている障がい児の災害時支援について、生活支援コーディネーターを通じて地域の方々に協力を依頼したという事例でした。



3密を避け、換気を行い、席の間隔をあけています。



★生活支援コーディネーターの活動としては支え合う地域作りがある。公的サービスでまかなうことに限界があるため、地域との結びつきを強くし地域共生社会を実現する必要があるとの話がありました。

★また生活支援コーディネーターより事例について、どのように地域の方々に声掛けを行い支援の協力依頼をしたかの説明がありました。地域の方々の協力を得て、障がい児（者）が地域で安心して暮らせるよう架け橋となり今後も障害福祉サービス事業所と連携していきたい、ぜひ生活支援コーディネーターをご活用下さいとの話がありました。

令和2年度第3回 筑後市地域自立支援協議会 生活部会

開催日時：令和2年11月19日（木）13：30～14：30

開催場所：筑後市総合福祉センター 2階大会議室

出席者（事業所）

年輪の園、浩明寮・仁愛荘、プラムの小径、植田病院、わかたけ作業所、筑後市社会福祉協議会、はねっこ、桜園、ヘルパーステーションキリン、筑後市手をつなぐ育成会、自立生活センターちくご、筑後市ホームヘルプ、おうち食堂、筑後市役所福祉課、ちくたくネット、事務局

★新型コロナウイルス感染症対策として ZOOM と会場での併用開催をしました。今回は、事業所と地域とのつながりについてというテーマで各事業所での取り組みについて意見発表を実施しました。

★ 意見発表

・山ノ井に事務所があるが地域との関わりは薄い。区長に挨拶程度、地域の行事に参加したりすることも少ない。利用者との担当者会議で地域の民生委員と話しをする機会がある。今後も利用者を通じて地域にうちの事業所のことを知ってもらい、地域で生活しやすいような関係づくりをしたい。

・地域との関わり、毎月区長から広報をもらい地域の行事をみて関われる行事には参加する。草刈り、大変だけど楽しく参加している。もちつきもある。地域から米を購入しているが、その時にもちつきに誘ってもらう。なるべく、地産地消。隣組、挨拶もしてもらう、地域に溶け込んでいると思う。利用者が小さなたばこ店で買い物して話し込んでいることを知った。楽しい時間をすごしているようだった。

・地域の祭りに参加する、児童部のステージ発表、系列の B 型作業所も祭りに参加したりしていた。以前、近所の空き缶拾いを週 1 回やっていた。グループホームでは地域との交流ない、疎外感を感じることもある。

・車いす体験を毎年 11 校、スタッフが参加している。体験を話している。移動支援など、利用者が地域で暮らすための支援している。

など各事業所の地域とのつながりについて話がありました。

★10/11日に手をつなぐ育成会1日レクリエーションに生活部会よりボランティアとして参加した際の報告がありました。柳川の川下りへ行き、みなさん充実した1日を過ごされていた。参加者31名。車いすの方も乗船できた。昼食も貸し切り。手をつなぐ育成会、明るくて社会の一員として関係者の関わりがあつてのこと、今後も協力をお願いしたいとのことでした。

★地域共生社会、地域の障がいへの理解について、生活部会や参加事業所で地域資源の力を借り取組みを行っていきたいと思います。



令和2年度第4回 筑後市地域自立支援協議会 生活部会

開催日時：令和3年1月28日（木）13：30～14：30

開催場所：筑後市総合福祉センター 2階大会議室

出席者（事業所）

年輪の園、浩明寮・仁愛荘、プラムの小径、植田病院、わかたけ作業所、筑後市社会福祉協議会、桜園、ヘルパーステーションキリン、筑後市手をつなぐ育成会、自立生活センターちくご、筑後市ホームヘルプ、筑後市役所福祉課、ちくたくネット、事務局
（コロナウイルス感染対策として4事業所がZOOM参加）

★ 今回は、年輪の園から「強度行動障害者の支援について」事例の紹介があり、グループワークを行いました。

強度行動障害とは、自分や人を傷つけたり、物を壊したり周囲の人に影響を及ぼす行動が多く、特別な支援が必要な状態を言います。

強度行動障害がある方の支援について、日中活動に参加してもらうにはどうしたらよいか、他の利用者さんと穏やかに過ごしてもらうにはどうしたらよいか、グループで話し合いました。



- ★ グループで活発な意見交換が行われ、
- ・環境面の工夫。（作業の工程が見える化する、仕切りをする、好きな音楽をかけるなど）
 - ・日ごろから蜜に関わり、話を傾聴する。
 - ・スケジュールを作成する。
 - ・他の利用者さんと過ごせる時間、人数を、スモールステップで増やしていく。
 - ・本人の成功体験を増やしていけるような支援を行っていく。
- などの意見が出ました。

★ 対応に悩んでいることも、一人の職員や一つの事業所で抱え込まず、自立支援協議会などを通して相談することが大切。事業所間の連携も深めていければ、との感想が聞かれました。